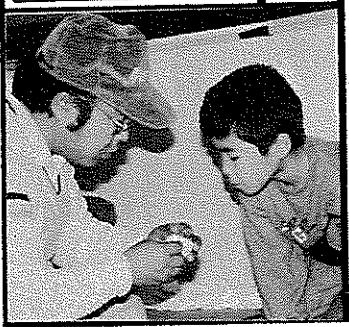


# 子どもをとりまく いろいろな組織

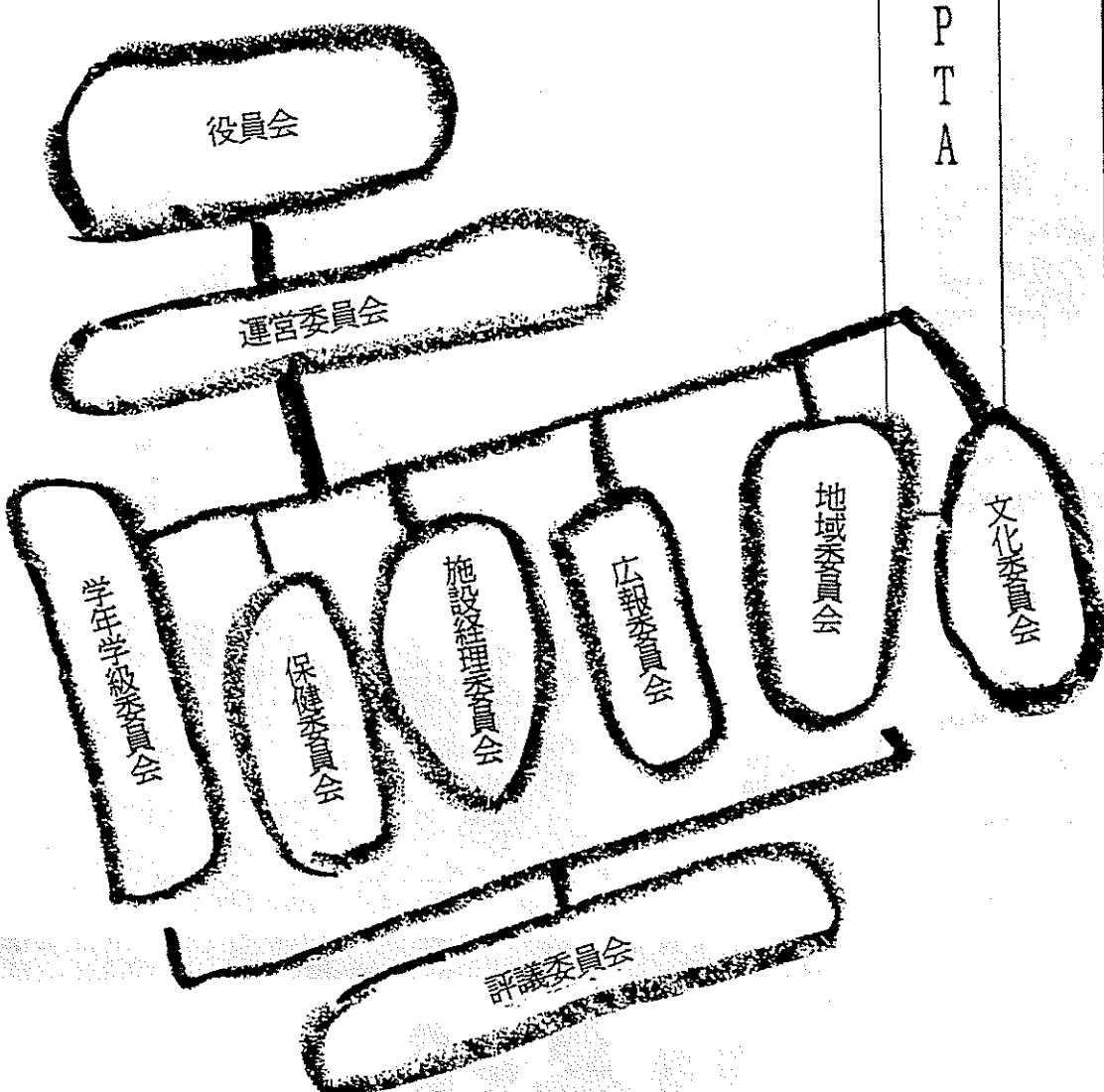


のびのびと元気で明るい子どもに育ってほしい—親の願いを形に変えて、子どもたちといっしょに夢を追い、その成長を温かくつつんでいる組織が町内にはたくさんあります。このコーナーでは、そんな組織と活動を紹介します。

「単P」って何ですか—  
『単位PTA』の略で、各学校のPTAを一つの単位とした呼び名です。  
「町P」って何ですか—  
『古賀町PTA連合会』の略で、町内九つの小・中学校の単位PTAで構成する連合会です。

### 常置委員会

- 〈学年・学級委員会〉父母と教師が、学校・地域・家庭の教育問題を話し合う集団学習の場で学年・学級の保護者と担任教師で構成します。
- 〈保健体育委員会〉子どもの保健問題や学校の衛生環境整備、給食関係など研究や改善充実に向けて活動しています。
- 〈施設環境委員会〉廃品回収などを実施するなど教育設備の助成活動をしています。
- 〈成人教育委員会〉会員の教養の向上を目的に、講演会・家庭教育講座の開催や資料作成などの学習活動をしています。
- 〈地域委員会〉集団登下校の世話、交通安全対策、地域集会、生活指導や子ども会などの関係団体との連携などの地域活動をしています。
- 〈広報委員会〉PTA全般にわたる情報提供と会員相互の理解と協力をもたらすために「PTAだより」などの機関紙を発行しています。



**PTAとは**  
PTAとは、Parents(父母)、Teachers(教師)、Association(会)の略で、「父母と教師の会」のことをいいます。

**PTAのおこり**  
いまから約九十年前、アメリカのアリス・バーニー夫人は、生まれたばかりのわが子の安らかな寝顔を見ながら、「いま全世界のあちらこちらで産声をあげている多くの幼児らの尊い生

命を、悪と矛盾に満ちた社会の中で、健やかに導いていくことはできないものか」と考えました。彼女の思いは共鳴者呼び、まず、幼稚園に「母の会」が誕生し、やがてPTAの誕生へと発展していきました。

**PTAの目的**  
PTAは、児童・生徒の幸福を願い、その健全な成長を図ることを目的に、父母と教師が協力して学校及び家庭における教育に理解を深め、児童・生徒の

生活指導や教育環境の改善充実を図るため会員相互の学習活動などをおこなう社会教育団体です。

海体験などの海洋訓練、また、それに必要な気候や海流・海の資源などについての学習のほか、ハイキング・キャンプなどのレクリエーションなど果てしなく広がる海に親しみながら楽しく活動をしています。

「子どもたちはいいですね、みんな限らない可能性を秘めています。海洋少年団は海をグラウンドに活動するので、いろんな訓練を必要とします。小学生から高校生までの異年齢集団、それぞれが役割を持って取り組んでいます。下級生は先輩たちと行動を共にする中で、いろんなことを学んでいくし、先輩の姿を目標に活動する子どもたちの姿は、いとおしくてなりませんね。」と石橋団長は目を細め次代を拓く子どもたちをやさしく見守っている。

連絡先 九四二一五八四六(石橋)

## 密度の濃い連帯意識の 土台づくりを

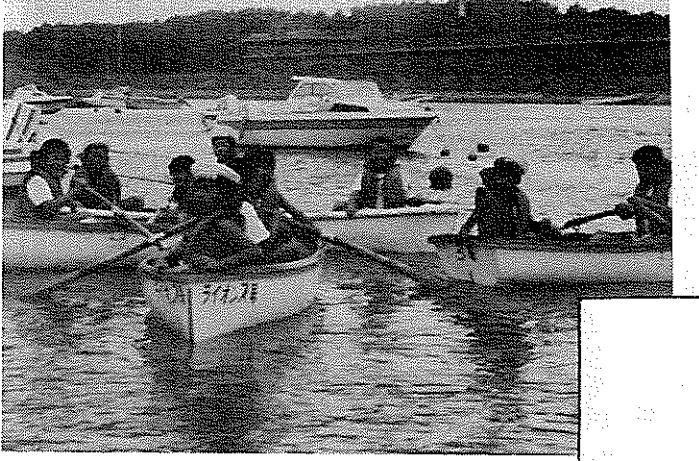
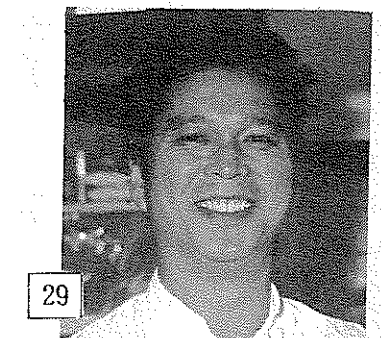
古賀北中学校PTA会長 中川 実さん(千歳)

親の願いは、古賀町に集う、子どもひとり一人が、楽しく充実した日々を過ごして暮れることです。子どもたちがより良い環境や、地域の中で生活を送ることができるように、施設や、設備の充実を図ること、また学校や地域に緑を多くして、潤いを持たせることも必要だと思っています。それと共に、子どもたちが本場に小学校や中学校時代を笑みあるものとするためには、お互いに差別したり、人の心を傷つけても平気でいられるような貧しい心を持った人間に育ててはいけません。

それには、子どもたちが毎日の生活に生きがいを感じて将来に希望を抱くことができるような気くばり、手助けが欠かせない要件でありましょう。だからこそ日頃から子ども同士、また親子の触れ合いを持ち、学校の先生とも連絡を取り合って子どもたちの健やかな成長に役立てたいと思います。

一方、学校集会や、地域懇談会などのPTA活動には会員のみなならず、育成会の人々や、行政区の役員、青少年指導員の人々にも参加していただき、地域ぐるみで子どもたちを見守っていこうとする連帯意識を伸ばす土台づくりをしているのです。

このようなPTA活動を通して先生や、親同士、地域の人々とのかわりがより、親密になり深まっていくことを信じています。

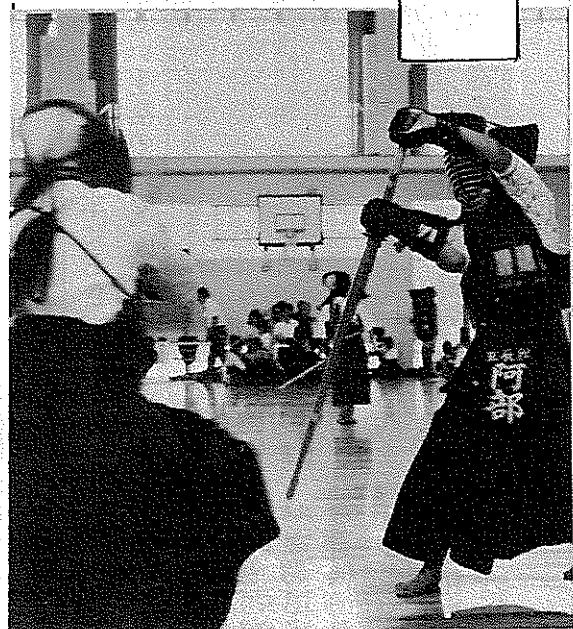


古賀海洋少年団

しつけを訓練の基本におき、規律正しい生活の中で、心身ともに健康でたくましい人間づくを目指している古賀海洋少年団(石橋正之団長・四十七名/昭和59年結成)は花鶴川河口をメインスタジアムに手旗信号・結索法・水泳にヨットやカッターの漕法・巡視船に乗っての航

スポーツを通して、子どもたちの心と身体を育てる場として、古賀町には次のようなジュニア・スポーツクラブがあります。

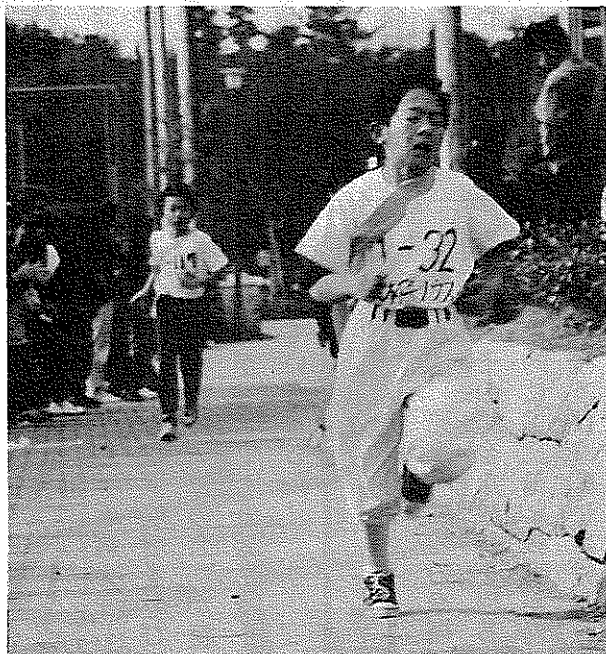
- 《柔道》巨彪館教室／於保教室
- 《剣道》小野剣友会／青柳少年剣道／古賀東小若葉会／古賀西小剣道／鹿部剣道クラブ／花鶴剣道部／十生館／玄辰館道場
- 《空手道》空手クラブ／古賀空



スポーツ・メッカ=古賀町は少年剣道が盛ん。町内8つのクラブは互いの技を競い合う。

- 手クラブ
- 《少林寺》少林寺拳法クラブ
- 《弓道》ジュニア弓道
- 《野球》小野少年野球／青柳少年

多くのジュニアスポーツクラブのチームが参加する「ジュニア駅伝大会」は、毎年2月に開催。平成2年には小・中学生あわせて90チームが参加した。



- リウス／古賀東小エンゼルズ／九州古賀（硬式）／福岡ライナーズ（硬式）
- 《バレーボール》小野小ジュニア／青柳小ジュニア／古賀東小ジュニア／古賀西小ジュニア／花鶴小ジュニア／千鳥小ジュニア
- 《バスケットボール》古賀東小ジュニア／古賀西小ジュニア／千鳥小ジュニア
- 《卓球》ジュニア卓球
- 《バドミントン》古賀ジュニア
- 《テニス》古賀ジュニア（硬式）
- 《バトン》福岡バトン
- 《サッカー》花鶴ジュニア
- 連絡先 九四四一―一八二五（古賀町体育協会）

玄海自然愛護少年団

緑や保安林を守る活動を通して、心身を鍛え、公德心を身につけていくことを目的に昭和五十八年に結成された「玄海自然愛護少年団（緑の少年団）」は、花見海岸の清掃活動や環境パトロール、キャンプなどで海岸を利用される方にゴミを持ち帰ってもらおうようビニール袋を配布したり、

古電柱や電線ドラムにペンキを塗ったベンチやテーブルを設置するなど自然保護啓発活動を展開している。同少年団育成会長で県森林保全巡視員の林勝彦さんは「先祖代々の緑豊かな花見で暮らしてきましたが、マツクイムシにやられて大きな松が倒れていくのを見て胸を痛めました、自然

は先人が築づいてきた貴重な財産、いつまでも守り育てないといけないと思って、子どもたちと歩み始めました。」という。平成元年夏には第三十一回自然公園大会に参加し大きな成果を修めた。「緑の樹木が成長するように子どもたちも伸び伸びとたくましく育ってほしい」と語る林さんは小さな緑の後継者に熱い期待をしている。連絡先 九四二―二六八〇（林）



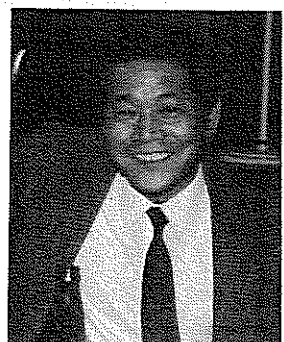
《玄海自然愛護少年団のちかい》

- 一、ぼくたちは、礼儀正しくします。
- 一、ぼくたちは、良い仲間づくりをします。
- 一、ぼくたちは、体をきたえ、豊かな心を養います。
- 一、ぼくたちは、玄海の自然と緑を大切にします。
- 一、ぼくたちは、すすんで奉仕活動をします。
- 一、ぼくたちは、郷土の自然を愛し、住みよい郷土を作ります。

のびのび顔の子どもがいろいろ

地域のための、子どもたちのかかわりって言うのは昔は当然のこととしてやりよったよね。

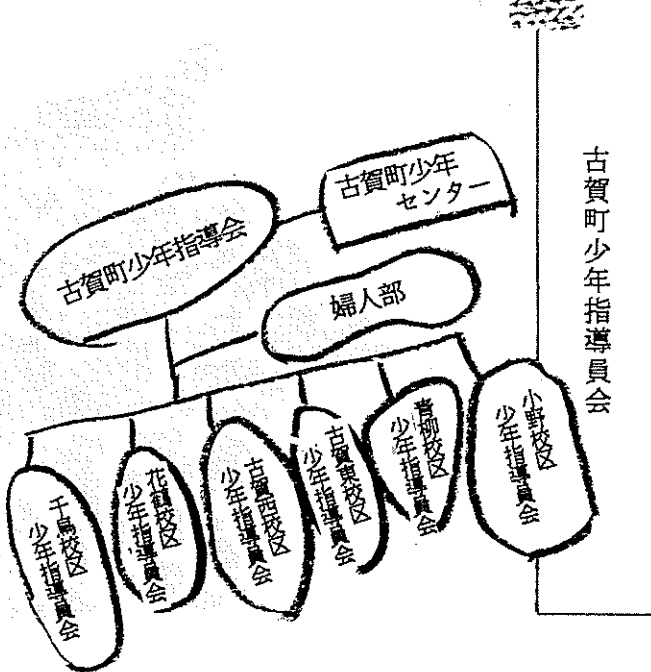
もぐらうちとか、おまつりとか、その中で、子どもたちの「和」をつくるつちゅうのがあった。そのころは子どもたちにまかせとったけど、今は、親がまかせきらんことになった。案外、伝統というのは、親が切りようと思う。



佐々木久翁さん（中川）

ジュニアバレーの指導をとおして一番学んだことは「子どもの主体性にまかせろ」ということですね。子どものニーズを聞かなくて親の意見だけでしたり、子どもが出来るものでも親がしよる。やっぱり、親のでしゃばりすぎじゃないかって思うんです。子どもの自主性にまかせけるようになったら、指導者として一人前になるんじゃないでしょうか。

当初は「営利目的だ」とか「塾がわりだ」という親の目もありましたが、ジュニアバレーも「育成会」をつくってからは、親も一体になってクラブが動いています。子ども会育成会も、出来るだけ子どもの自主性にまかせて、のびのび親の、ニコニコ顔の活動をしたいですね。できると思っていますよ。



古賀町少年指導員会

機関として各小学校区毎に、少年指導員連絡会があり、よりよい少年指導のあり方を協議検討したり、連絡調整をおこなっています。

また、これを統括する古賀町少年指導員会（落石淳会長）では、少年指導員として必要な知識と指導方法などの研修会や少年問題の調査研究に努めたり、婦人部（益田淑子部長・十三名）では独自に昼間における巡回指導をおこなっています。連絡先 九四三一―二六一五（古賀町少年センター）

